

# 重症急性呼吸器 症候群

（SARS）  
サーズ

現在、東アジア（中国、香港、台湾など）を中心にSARSが流行し、各国およびWHO（世界保健機関）は、その対策に必死に取り組んでいます。日本国内では、まだSARS患者の発生は確認されていませんが、国内製造業の中国をはじめとする海外移転が進み、人や物の移動が激しいこの時代には、いつ日本国内に入ってくるかわかりません。今回は、SARSについて現在わかっていることや、その予防対策・感染について心配な方向の方のために、お話ししてみたいと思います。

## SARSとは…

昨年（2002年）11月、中国広東省で普通の肺炎とは少し異なる肺炎が流行しだしたことに端を発しています。

この肺炎は同地区で、2003年2月までに305名が感染し、5名が死亡しました。

その後、中国本土から香港に感染が拡大し、3月12日に香港で大流行を認め、世界的に注目され、WHOも調査に乗り出しました。

そして、この肺炎をSARS (Severe Acute Respiratory Syndrome…重

急性性呼吸器症候群) と命名、原因ウイルスの特定のために国際協力体制が生まれ、異例の早さで新種のコロナウイルスであることが判明、SARSコロナウイルスと命名されました。

## SARSコロナウイルスとは…

コロナウイルスは、球型の30ナノメートル（10億分の1メートル）ほどの小型ウイルスですが、これまで人間にはたいした病気を起こさないウイルスでした。ブタやニワトリの胃腸炎、マウスで肝炎を起す程度でした。

このコロナウイルスがなんらかの原因で、病原性が強くなり、ヒトの新型肺炎を起こすようになったと考えられています。

## SARSの臨床的特徴

感染経路は、患者の咳によつて排出された飛沫感染が主であると考えられています。



その他、その飛沫が付着した物に触った手で、鼻や口を触ることによる接触感染もあると考えられています。

潜伏期間（菌が体に入ってから発病するまでの期間）は、2〜10日とされています。

ウイルスの排出が最も強いのは、発病後10日目くらいの咳の激しい時期とされています。

その他、死亡率は4〜15%くらい、自然寛解率（感染しても自然に良くなる率）は、80〜90%あるとされていますが、まだまだ確かなことは不明のようです。

## SARSの症状

38度以上の発熱は、必発のようです。その他、悪寒、筋肉痛、比較的痰の少ない咳、下痢などを認めるようです。咽頭痛は、頻度は少ないとされています。



肺炎を起こしてきますと、呼吸困難を認めるようになり、重症例では、人工呼吸器の使用が必要になる場合があります。

## SARSに対する対策

SARS対策の基本は、2つの面からなされる必要があります。

① 患者さんの早期発見と早期の対応

SARSウイルスに対する有効な抗ウイルス剤のない現在、安静と栄養確保、解熱をはかるなど症状の改善をする必要があります。

② 院内感染対策と接触者への感染拡大の予防が重要とされています。

## SARSの診断基準

SARSの診断は、次の順序で行われます。

### 疑い例

発症10日前までに、SARS発地域への渡航歴のある人で、38度以上の急の発熱を認め、咳や呼吸困難などの呼吸器症状を認める人が、SARS疑い例とされます。

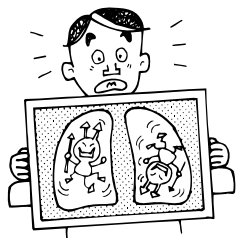
保健所に届出され、保健所でSARSウイルス検査がすすめられます。

### 可能性例 (隔離措置)

疑い例で、SARSウイルスが陽性の場合。胸部X線写真で肺炎を認め、普通の抗生物質では改善しないような肺炎を認める場合です。

この場合に

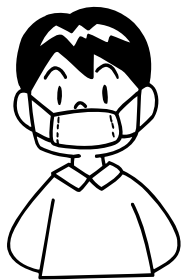
は、新型肺炎として強い隔離措置がとられます。



## SARSの予防

飛沫感染ですので、予防の第一はマスクの着用です。普通のマス

クにガーゼを2〜3枚重ねるか、できればサージカルマスク、さらにN95のマスクがすすめられます。あとの2つのマスクは、医療機器屋さんでないといけないかも知れません。



また、外出より帰ったときの手洗い、うがい(イソジン液など)も重要です。



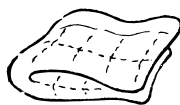
人ごみはさけたり、少なくともWHOの渡航自粛勧告地域への旅行はひかえる必要があります。

## SARSの消毒

SARSウイルスは、消毒に対する抵抗性は強くなく、加熱によっても死滅します。

家庭では、消毒用アルコール(エタノール、イソプロパノール)で

も良いとされています。その他、ホピドンヨード(イソジンなど)、次亜塩素酸ナトリウム(ミルトンなど)、グルタール(サイデックスなど)などが使用されます。



食器、衣類やシーツなどは、80度以上の熱湯に10分以上ひたせば良いようです。

トイレの消毒は、飛沫が飛び散らないようにし、市販の家庭用の漂白剤で拭く程度でよいとされています。

その他、実際にSARS疑い例や可能性例の患者が発生したご家庭や職場については、保健所と相談して、事後対策をとっていくこととなります。

## その他

どんな感染症においても言えることですが、感染症を完全に予防することは、不可能と考えられます。早い段階で見つけ、拡大を最小限に抑えることが重要です。

県の方針として、SARS汚染地域から入国された場合には、10日間の自宅での経過観察がすすめ

られています。

その間に何か変化が認められた場合には、

- 諏訪保健所 (☎ 57-2927)
  - 諏訪日赤病院 (☎ 52-6111)
- に、まず電話でご相談いただきたいと思えます。

- 岡谷市では、
  - 岡谷病院 (☎ 23-8000)
  - 塩嶺病院 (☎ 22-3595)
- でも相談を受け付けております。



また、電話後に来院される場合には、救急車やタクシーの使用はひかえ、マスクをして自家用車で来院するようにしていただきたいと思えます。

以上、SARSについて現在わかっていることを簡単に述べましたが、SARSに関する新しいニュースが毎日次々と流されています。それらの情報に、常に注意している必要があります。(医師会)

